

第五十九回帝國議會 衆議院

勞働者災害扶助法案外二件委員會會議錄(速記)第四回

付託議案

勞働者災害扶助法案(政府提出) 勞働者災害扶助責任保險法案(政府提出) 勞働者災害扶助責任保險特別會計法案(政府提出)

會議

昭和六年三月十六日(月曜日)午後一時五十六分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 山邊 常重君

理事 竹田 儀一君

理事 坂東幸太郎君

理事 村上紋四郎君

理事 崎山 武夫君

小山 令之君

佐藤 與一君

牧野 良三君

原 惣兵衛君

西尾 末廣君

出席政府委員左ノ如シ

社會局長官 吉田 茂君

社會局部長 富田愛次郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働者災害扶助法案(政府提出)

勞働者災害扶助責任保險法案(政府提出)

勞働者災害扶助責任保險特別會計法案(政府提出)

○山邊委員長 前回ニ引續キ會議ヲ開キマス

○原委員 先般第三條ノ問題ニ付テハ

保留シテ置イタルデアリマスガ、引續

イテ要領ダケヲ解決シタイト思ヒマ

ス、私ノ質問ノ第三條ノ内容ハ、此規

定ハ全然從來ノ事業主本位ヲ棄テ、勞

働者本位ニ出來上ッテ居ル、五十六議會

ノ政府案ト云フモノト今度ハ逆ニ全體

ガ勞働者本位デアアル、斯ウ云フ形ニナ

テ來タト云フコトヲ申上ゲマシテ、連

帶規定ヲ取ツタ、之ヲ從來連帶ノ責任規

定ガアッタノニ、今度之ヲ御取リニナ

タト云フコトハ、連帶責任ガ有ルノト

無イノト、ドツチガ宜イカト云フコトニ

付テ、泉二刑事局長ノ裁判上ノ問題ト

シテ御説明ヲ願フタ時モ、無論連帶ニシ

タ方ガ宜イト云フコトデアッタノデア

リマス、ソコデ先ヅ三條ニ入ル前ニ、

連帶規定ヲ置イタ方ガ宜イカ、置カナ

イ方ガ宜イカト云フコトニ對シテ、政

府委員ハ責任ノ歸屬ヲ明カニスルコト

ガ出來ルカラ、寧ロ連帶ノ規定ヲ廢ス

ルノダ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、

ソレハ事實上ノ問題トシテ、一應サウ

云フ御答辯ニナラレルノハ一寸見タラ

御尤モノヤウニ思フノデアリマス、ソ

レデ法律上ノ問題デ連帶責任ガ有ル方

ガ宜イカ、無イ方ガ宜イカト云フコト

ハ、是ハ議論ガナイ、過日ノ御説明ニ

依ルト責任者ガ明カニナラヌカライケ

ナイノダト云フ御説明デアッタ、事實問

題トシテ、アツチヘ行キコツチヘ行クト

困ルカラト云フ御話デアリマシタガ、

法律ト云フ一ツノ大前提ニ立ッテ事實

ノ問題ヲ考ヘル時ニ於テハ、尙更私ハ

力強ク、責任ヲ回避シナイ地位ニ立ッテ

居ルカラ餘計宜イノダト思フ、例ヘバ

數次ノ元請、下請ノ關係デ、茲ニ土木

ナラ土木ノ請負ヲヤツテ居ルト云フ場

合ニ於テ、實際負傷シタヤウナ時ニ於

テハ、先ヅ一番ノ下請人ノ帳場ノ親方

ニ向ッテ、ドウカシテ呉レト云フ問題ガ

事實上起ル、サウシテ其帳場デ事實上

其問題ガキマツテ來ル、其後ノ問題ハ、

ドウモ其帳場主ガ支拂フ能力ガ不能デ

アルトカ、或ハ無責任ニ棄テタ場合ニ

於テ、ソレカラ事實問題トシテ元請ヘ

行ク、ダカラ元請ト云フモノガ若シ

三段ノ構ヘニナツテ居ッタ場合ニ於テ

ハ、其次ノ親方ニ行ク、ソレハ事實デ

アリマス、デアルカラ事實上ノ責任者

ハ誰カト云フコトハ、モウ的確ニキチン

キチントキマツテ來ル、例ヘバ實際働イ

テ居ル帳場ヲ棄テ、置イテ、他ノ所ヘ

持ッテ行ッテ、私ハ傷ヲシタカラアナタ

ノ方デヤツテ呉レト云フヤウナコトハ

言フベキ筋ノモノデハナイ、唯法律上

ノ債務ノ問題トシテサウ云フ者ガ聽カ

ナイ時ニハ次々ニ移ッテ來ル、其時ニ始

メテ連帶責任ノ規定ガナツテ、アナタノ

方モ責任者デアルカラ、アナタモドウ

カシテ下サイ、元請人カラ其次ノ、例

ヘバ三段ニナツテ居ッテ、其三番目ノ帳

場デ働イテ居ル者ガ二番目ニ行ク、二

番目モ連帶規定ガアルカラ捨テ、置ケ

ナイ、ソコデ元請ニモ話スト云フヤウ

ニ、假令一番最初ニ働イテ居タ帳場ガ

駄目デモ、後二人アルカラ次々ニ行ク

ト云フコトニナリマスカラ、ドノ點ニ

於テモ、事實上ニ於テ、理論上ニ於テ

連帶規定ヲ省イタ方ガ、責任者ノ歸屬

ヲ明白ニスルト云フコトニ——事實問

題ト法律問題トシテ全然別個ニ考ヘテ、

是ハ事實問題ノ上ニ於テ何等差支ガナ

イ、責任者ヲ曖昧ニスルト云フヤウナ

理論ハ、私ハ毫モ成立ッテ居ナイト思ヒ

マスガ、此點如何デアリマスカ

○吉田政府委員 丁度今御話ニナリマ

シタヤウナ事情デアルト思ヒマス、怪

我ヲシタ、或ハ業務上ノ災害ニ遭ッタト

云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、先ヅ第一ニ直接ニ使ハレテ居リマス親方ノ所ニ、何トカシテ下サイト云フコトヲ申込ムノガ、極メテ普通デアリ、自然ノ成行デアルト思ヒマスガ、其時ニ、下請人ト云フ者ハ多クハ直接勞働者ニ接シテ居ルガ、其一番下ニナッテ居ル者ハ資力が薄弱ナ場合ガ多イト考ヘネバナリマセヌ、サウシテ請負金ヲ貰フニハドウデアアルカト云フト、元請人が貰フテ、扶助責任法ガ出來タラ、責任保險ニ加ハル爲ニハ、金ハ元請人カラ貰フノデアリマスカラ、資力ノ點カラ申シテ、又辨濟ノ可能性ト云フコトカラ言フテモ、元請人ガ一番宜イノデアリマス、併シ是ハ直接勞働者ニ接觸ヲシテ居リマセスカラ、斯様な場合ニ於キマシテハ、元請人ト下請人トノ間ニ契約ヲ結ビマシテ、サウシテ只今御話ノヤウナ實情デ、下請人デ支出ヲスルト云フヤウナ特約ヲ結ンデ、下請人ガ扶助責任ヲ果スト云フコトニナッテ居リマス、隨テ御話ノヤウナ場合ニハ先ヅ親方ニ持ッテ行ッテ、アナタ一ツモノニシテ呉レト云フコトヲ申込ミマシタ場合ニハ、其時ニハモウ元請人ハ下請人ニ請求スベキコトヲ催告スルコトノ必要ハナイノデアリマス、先ヅ下請人ニ求メテ居ルノデアリマスカラ、下請人ダケデ、今度ハ問題ヲ考ヘルト云フコト

ニナルノデアリマスカラ、詰リ支出ノ上カラ言ヒマスト丁度今御述べニナリマシタヤウナ實情デ、下請人元請人ノ間ノ關係ヲ律シマシテ、サウシテ二人共扶助責任ガアルトカ、或ハ下請人ノミニ請求スルトカ、是ハ其事實ニ立脚シテ、サウシテヤルノデアリマス、決シテ元請人ノ責任ヲ免レサセル意味デアリナイノデアリマス、事實其通リニナッテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フ風ナ建前ニシテ居ルノデアリマス、無論御述べニナリマシタヤウニ連帶ト云フコトヲ法律的ニ云ヒマスレバ、非常ニ強イ債務デアリマスカラ、法律的ニ先達泉ニサンノ御話ニナリマシタヤウニ、能力ヲ持ツト云フコトハ固ヨリデアリマスガ、勞働者ト請負人トノ間ノ關係ニ付テ訴訟ニ依リ、裁判ニ依ッテ、誰ガ義務者デアルト云フヤウナコトヲ決メラレル場合ハ極メテ稀デアラウト私共ハ豫想シテ居リマス、隨テ簡易迅速ニ的確ニ行ハレルコトガ寧ろ勞働者ノ福利デアアル、サウスルト誰ノ所ニデモ行ケルト云フ制度ヨリハ、先ヅ一番普通ニ行ク場合ヲ豫想シテ、普通ニ行ク下請人ガ一番先デアアル、其次ニ元請人ニ行クニ付テモ或ハ御擧ゲニナリマシタヤウニ、數次ノ元請人ガアル場合ニ於キマシテ順々ニ遡ッテ行クト云フコトハ、是ハ勞働者ノ爲ニ非常ニ不便ナ

事デアアル、斯様ニ考ヘマシテ一人ノ元請人ト一人ノ下請人ト斯ウ云フ者ヲ扶助ノ責任者トシテ、通常勞働者ノ行キマス下請人ノ所ニ先ヅ行ク、是ハ極ク通常ノコトナノデアリマスカラ、少シモ此點無理ハナイト思フ、又一方扶助責任ノ保險ニ這入ルノハ元請人ナノデアリマスカラ、元請人ガ其原則トシテ自分ノ經濟的負擔ニ於テ扶助スルト云フコトモ、扶助スル側カラ云フテ當然デアリマスカラ、此點カラ元請人、下請人ト云フモノヲ以テ責任者トシテ、サウシテ順序ヲ豫定シテ置クト云フコトガ一番實情ニ即シ、尙ホ今回扶助責任ヲ行フニ付テモ最モ適切ノコトデアルトシテ斯様ニシテアルノデアリマス、連帶責任ノ方ガ權利ガ強イト云フノデ、民法ノ連帶責任ヲ其儘使フコトハ勞働者ノ爲ニモ良クナカラウト云フ考デアリマス、殊ニ土木建築ニ於テハ是ハ扶助責任ノ方ハ強制加入ナノデアリマシテ、之ニ扶助ガ受ケラレナイト云フヤウナ心配ハ絕對ナイ、隨テ順序ガ實情ニ即シテ簡便的確ニ定マルト云フコトノ方ガ主ナ實益ニナッテ居ルノデアリマス

○原委員 今御説明ガアリマシタガ、保險法ヲ見レバ保險金ノ受取人ハ元請人トナッテ居ル、ソレガ此順序ニ依ッテ出來得ル限り簡單ニ果シテ貰ヘル途ヲ拵ヘルコトガ、勞働者ノ爲ニナルコト

○吉田政府委員 勞働者ノ保護ガ薄クナッタト云フコトハナイノデアリマス、責任者ガアルコトハ明確ニアルノデアリマスノデ、勞働者ガ扶助責任ヲ果シテ貰ヘナクナルト云フコトハ絕對ナイノデアリマス、扶助責任ハ必ず法律上モ果シテ貰ヘルト云フコトニナリマスレバ、其扶助責任ヲ果シテ貰フニ付テ出來得ル限り簡單ニ果シテ貰ヘル途ヲ拵ヘルコトガ、勞働者ノ爲ニナルコト

ト考ヘネバナラスノデアリマス、此立  
案ノ趣旨ハ出來得ルダケ簡單ニ請負人  
ノ實情ニ即シ、扶助責任法ガ同時ニ施  
行セラレルト云フコトヲ考慮シテ、最  
モ圓滑ニ最モ迅速ニ扶助ガ行ハレルヤ  
ウニスルト云フノガ今度ノ立案ノ趣旨  
デアリマシテ、決シテ之ニ依ッテ労働者  
ノ保護ガ輕クナル、扶助ガ受ケ惡クナ  
ルト云フコトハ起ラナイト思フノデア  
リマス

○東條委員 一寸原君ノ質問ニ關聯シ  
テ伺ヒマスガ、今ノ御答辯ニ依ルト決  
シテ事實上ノ問題トシテモ労働者ノ爲  
ニ不便ニナラヌト云フ御意見ノヤウデ  
アリマスガ、事實問題トシテ斯ウ云フ  
場合ガ多イノデス、假ニ甲ノ請負人ガ  
アル、ソレカラ乙ノ下請人ガアル、更  
ニ丙ノ下請人ガアル、甲ノ請負人ハ大  
都市サドニ事務所ヲ持ッテ居ル大キナ  
モノデ、乙ノ中間請負人ハ其地方ニ於  
ケル相當ノ請負人デアアル、サウシテ丙  
ノ詰リ第二番目ノ下請人ハ極ク小サナ  
モノデアアル、資力モナイシ、總テ第二  
ノ下請人ノ力ニ依ッテ漸ク仕事ニ有付  
イテ居ルヤウナモノガアル場合ガ多  
イ、サウ云フ時ニ丙ノ下請人ハ實際ニ  
労働者ヲ使ッテ居ル者ハ資力モ信用モ  
ナイシ、又斯ウ云フコトニ對スル責任  
感モ薄イ、所ガ甲ノ請負人ハ非常ニ遠  
隔ノ地ニ居ッテ、労働者ガ直接ニ交渉シ

ヨウト思ッテモ中々僅ナ旅費デハ行ク  
コトモ出來ナイヤウナ事實ガ請負人ノ  
實際ニハ少カラズアル、此場合ヲ豫想  
シテモ、全部ガ連帶責任ヲ負フコトノ  
方ガ宜イノデナイカト考ヘテ居リマ  
ス

○富田政府委員 今御話ノヤウナ場合  
ハアルト思ヒマスガ、請負人ハ實際請  
負ガアリマシタ場合ニ、中間ヲ取ッテ丙  
ニ行ッタ場合ニ、丙ノ請負場所ニハ事實  
ハ甲ノ元請ガヤッテ居ルヤウナ代理ト  
モ申スベキモノガ居ルノデアリマス  
ガ、今ノヤウニ甲ノ元請カラ丙ノ下請  
ニ引受ケサセタ場合ニ於テハ、明瞭ニ  
丙ガ引受ケタコトヲ其處ニ公示等ノ方  
法ヲ用ヒレバ、丙ガソレノ下請ガ明瞭  
ニ分リマス、丙ニ請求シタ場合ニ丙ガ  
支拂ハナカッタヤウナ時ニハ、直チニ其  
場所ニ於ケル甲者ニ請求ガ出來ルノ  
デ、労働者ノ保護ノ上ニ於テ缺クル所  
ハナカラウト考ヘマス

○東條委員 成程形ノ上ハ御話ノ通り  
ニナッテ居リマス、併シ乙ノ第二ノ請負  
人ガ相當資力信用ノアル請負人デ、其  
中ニ入ッテ居ル場合ニハ、甲ノ代理人ト  
云フモノハ請負契約ノ相手方ニ對シテ  
ノ責任上或ル代表スベキ人ヲ置イテ居  
ルニ過ギナイ、其人モ誠ニ力ノナイモ  
ノデアアル、實際其事ヲ其乙ノ請負人ニ  
委シテ居ッテ、唯役所ナリ何ナリニ對ス

ル責任上出張シテ居ル代理人デアアル、  
名前ダケノ者ヲ置イテ居ルヤウナ事實  
ガ多イ、斯ウ云フ點カラ考ヘテモヤハ  
リ乙ノ請負人ニ直接交渉シ得ル方ガ勞  
働者ノ立場カラ言ヘバ非常ニ便利デア  
リ、サウシテ事ガ圓滑ニ迅速ニ運ビ易  
イト考ヘテ居リマス

○吉田政府委員 御話ノヤウナ場合丙  
ト云フ請負人ニ辨濟ノ能力ガ乏シイ、  
ソレハ人夫頭ト云フヤウナ地位ニ居ル  
人間デアッテ、扶助ノ責任ヲ果ス能力ガ  
ナイ、實際其人間ガ適當デナイト云フ  
ヤウナコトデアリマスレバ、丁度今御  
舉ゲニナッタ例ニ依ッテ、甲乙ノ間ニ其  
扶助責任ニ關スル書面契約ト云フモノ  
ヲ取交ハスト云フヤウナコトニ自然ナ  
ルノデハナイカト思フノデアリマス、  
此契約ヲ取交ハスト云フコトニ付テ  
ハ、其扶助責任ヲ果スコトニ付テ最モ  
適當ノ者ノ間ニ取交ハサレルト豫想シ  
テ居ルノデアリマス、多數ノ下請負人  
ト契約ヲ取交ハスコトヲ認メズ、契約  
ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシ  
メタ場合ニハ、其下請負人モ其工事ノ  
事業主トスルト云フ風ニシテアリマス  
ノハ、扶助責任ヲ果スニ付テ最モ適當  
ナ下請人ガ選バレルコトヲ豫定シテ居  
ルノデアリマス、又御想像ノヤウナ場合  
モアリマセウ、オ前ガ直接労働者ヲ使ッ  
テ居ルノデアアルカラ、オ前ニ扶助責任

ヲ果シテ貰ヒタイ、其代リニハ内部ノ  
請負契約デ斯ウノト、内部契約デ資  
格ヲ付ケテ、丙請負人ト甲請負人ノ間  
ニ契約ノ取交サレルヤウナ場合モアリ  
マセウ、左様ナ場合ニ於テハ直接使ハ  
レテ居ル親方デアアル丙ト云フ者ガ、自  
然通常ノ状態ニ於テ第一ニ扶助請求ヲ  
受ケル人デアリナガラ、サウ云フ關係  
デ自分ガ扶助責任者デアルト云フコト  
ヲ工事場ニ告示ナリ何ナリヲサセルノ  
デ容易ニ識別サレルノデアリマスカ  
ラ、サウ云フ場合ニハ丙請人ハ甲請人  
カラソレダケノコトヲシテ貰フ、サウ  
云フ條件ノ下ニ下請ヲシテ居ル、其時  
ニ其問題ニ關係ヲシナイ間ノ乙請負人  
ヲ經由スルト云フコトハ、一ツノ面倒  
ヲ掛ケルバカリデアッテ、實際上カラ言  
ヘバ實益ノナイコトデハナイカト私共  
ハ思ッテ居ルノデアリマス、此點ハ何處  
マデモ扶助責任ヲ引受ケル人間ガ明確  
デアリ、實情ニ即シテ扶助責任ヲ引受  
ケル者ガ決ラネバナラス、此二ツガ勞  
働者保護ノ見地カラ申シテモ、本法ノ  
趣旨ヲ達スル上カラ申シテモ、適切ナ  
モノデナクテハナラヌト思ッテ居リマ  
ス

○西尾委員 只今第三條ニ關スル原委  
員ノ質問ニ對シテ當局ノ言明ガアリマ  
シタガ、私ハドウモ斯ウ云フ規定ガアッ  
テモ、元ノ請負ノ方ニ要求シタ場合此

規定ヲ楯ニ取ツテ、一應下請負ノ方ヘ行ッテ其請求シタコトヲ明カニシテ來イト云フコトヲヤレルノデハナイカト思ヒマス、一旦下請負ヘ行ッテ拒絶ヲサレテ後ニ元請負ノ方ヘ行ッテモ、先ヅ催促スル權利ガアルト云フコトデ、サウ云フコトヲサレルノデハナイカト云フコトガドウモ不安ナンデス、ソレト元請ト下請トノ間ニ話ノ折合ヲ付ケルトカ何トカ云フコトニ依ッテ、扶助ヲスルノガ

ガ、何カ證據ニナルモノヲ取ルコトガチットモムヅカシイコトハナイト思ヒマス、下請人ニ行ッタト云フ證據サヘアリマスレバ、元請人ハモウ一遍下請ニ行ケト云フコトハ言ヘナイノデアリマス、其邊ノコトハ法律ニ明文ヲ置カズトモ極メテ容易ニ證明シ得ラレル事柄ダト思フノデアリマス

キマシテモ御心配ニナリマスヤウナアツチコッチト云フノデ押問答ヲシテ、其爲ニ無暗ニ時日ガ遷延スルト云フコトハ、今度保險ヲヤリマスト殆ドナクナルデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレハ連帶ニ付テモ保險ニスルト云フコトハ事實上ノ問題トシテハ豫想シナクテハナラナイノデアリマス、今度保險ヲヤリマスとソレガ殆ドナクナルト思ヒマス

ヤウナ場所ニ於キマシテ、法律ノ規定以外ニ、御話ノヤウナ趣意デ、今大阪デヤッテ居リマス市廳ノ失業防止委員會見タヤウナ協議會ノヤウナモノヲ拵ヘルト云フコトハ、御話ノ通り便宜デアルカモ分リマセヌ、ソレ等ノ點ニ付テハ一應考慮致シテモ宜シウゴザイマス

トカ云フコトニ依ッテ、扶助ヲスルノガ緊急ノ場合ニ行カヌヤウナコトガ起リ得ルモノト思フノデアリマスガ、ソレニ付テ法案ノ中ニサウ云フ弊害ヲ除クヤウナモノヲ入レルトカ、或ハ他ノ適當ナ方法ニ依ッテサウ云フコトノ起ラナイヤウニスル御考ガアルデセウカ

○西尾委員 時ニ又下請ノ方ニ拂フコトニナツテ居ルノダカラ、僕ノ方カラ調ベテ見ヨウト云フヤウナコトデ、色々下請ト元請トノ接衝ヲシテ居ル間ニ、事實上時間ガ掛ツテ扶助ノ責任ヲ果スコトガ出來ナイヤウナ結果ニナル虞モアルト思ヒマス、其點如何デセウカ

○西尾委員 其點ニ付テ私ハ出來ルダケ弊害ヲ少クスル爲ニ、事實上サウ云フ問題ニ付テ紛擾ガ起ッタ場合ニ、ソレヲ適當ニ處理スルヤウナ委員會ノヤウナモノヲ作ッタラドウカト考ヘテ居ルノデアリマス、例ヘバ此事ノミニ限ラズ、此法律ガ實際ニ獎勵スル保護ノ目的ヲ達スル爲ニハ、殊ニ親分子分等ノ關係等ガアリマシテ、權利義務ト云フコトヲ強ク主張スルコトノ困難ナ事情ヲ置カレテ居ルノデアリマスルカラ、

○山邊委員長 一寸速記ヲ止メテ……〔速記中止〕

○吉田政府委員 元請人ニ請求シタ場合、假令下請ニ請求ヲシテ斷ラレタノデアツテモ、又モウ一遍突返サレル虞ガアリハシナイカ、斯ウ云フ御尋ダト思ヒマスガ、事實上ハ下請人ニ請求スルノガ實情ナノデアリマス、而モ元請人ニ行ク前ニ下請人ニ請求致シマセウ、殊ニ下請人ハ責任ヲ明確ニ果スノダト云フコトガ示サレテアリマスレバ、其

○吉田政府委員 元請人ト致シマシテハ原則トシテノ責任ヲ果ス人デアリマスシ、事實上請求シタコトノ明瞭デア

○西尾委員 ソレハ法ノ運用上ニ非常ニ有效ダト思ヒマスカラ、特ニ御考慮ソレカラ第二條ニ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」トシテ、扶助ノ内容ガ勅令ニ依ッテ決定サレルコトニナツテ居リマス

○富田政府委員 症狀ガ三箇月デ治癒シナカッタ場合ニハ、賃金ノ五百四十日

下請人ニ行クノハ當然ナノデアリマス、ソコデ契約ノアル場合ニ斷ラレルト云フノデアリマシタナラバ、ソレハ又元請人ニ示ス爲ノ斷リノ手紙デアリマセウガ、或ハ請求ノ控デアリマセウ

ナリマス、前ニチャント掛金ガシテアルノデアリマスカラ、ソコデ事實上ニ於

○吉田政府委員 一ツノ地方ニサウ云フ委員會ヲ原則トシテ常設的ニ置クコトハ、一寸考ヘ物ヂヤナイカト思フノデアリマス、併シ例ヘバ東京、大阪ノ

「但シ症狀ニ依リ行政官廳ノ認定ヲ受ケ右ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得ルコト」是ハドウ云フコトデアリマスカ御説明ヲ願ヒマス

ナリマス、前ニチャント掛金ガシテアルノデアリマスカラ、ソコデ事實上ニ於

○吉田政府委員 一ツノ地方ニサウ云フ委員會ヲ原則トシテ常設的ニ置クコトハ、一寸考ヘ物ヂヤナイカト思フノデアリマス、併シ例ヘバ東京、大阪ノ

○富田政府委員 症狀ガ三箇月デ治癒シナカッタ場合ニハ、賃金ノ五百四十日

○富田政府委員 症狀ガ三箇月デ治癒シナカッタ場合ニハ、賃金ノ五百四十日

○吉田政府委員 元請人ニ請求シタ場合、假令下請ニ請求ヲシテ斷ラレタノデアツテモ、又モウ一遍突返サレル虞ガアリハシナイカ、斯ウ云フ御尋ダト思ヒマスガ、事實上ハ下請人ニ請求スルノガ實情ナノデアリマス、而モ元請人ニ行ク前ニ下請人ニ請求致シマセウ、殊ニ下請人ハ責任ヲ明確ニ果スノダト云フコトガ示サレテアリマスレバ、其

○吉田政府委員 元請人ト致シマシテハ原則トシテノ責任ヲ果ス人デアリマスシ、事實上請求シタコトノ明瞭デア

○西尾委員 ソレハ法ノ運用上ニ非常ニ有效ダト思ヒマスカラ、特ニ御考慮ソレカラ第二條ニ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」トシテ、扶助ノ内容ガ勅令ニ依ッテ決定サレルコトニナツテ居リマス

○富田政府委員 症狀ガ三箇月デ治癒シナカッタ場合ニハ、賃金ノ五百四十日

○吉田政府委員 元請人ニ請求シタ場合、假令下請ニ請求ヲシテ斷ラレタノデアツテモ、又モウ一遍突返サレル虞ガアリハシナイカ、斯ウ云フ御尋ダト思ヒマスガ、事實上ハ下請人ニ請求スルノガ實情ナノデアリマス、而モ元請人ニ行ク前ニ下請人ニ請求致シマセウ、殊ニ下請人ハ責任ヲ明確ニ果スノダト云フコトガ示サレテアリマスレバ、其

○吉田政府委員 元請人ト致シマシテハ原則トシテノ責任ヲ果ス人デアリマスシ、事實上請求シタコトノ明瞭デア

○西尾委員 ソレハ法ノ運用上ニ非常ニ有效ダト思ヒマスカラ、特ニ御考慮ソレカラ第二條ニ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」トシテ、扶助ノ内容ガ勅令ニ依ッテ決定サレルコトニナツテ居リマス

○富田政府委員 症狀ガ三箇月デ治癒シナカッタ場合ニハ、賃金ノ五百四十日

以上ノ打切扶助料ヲ請求シテ、一切扶  
助責任ヲ免レル、此點ハ工場法モ斯ウ  
デアリマシテ、長イ間ノ療養費ト云フコ  
トヲ打切扶助料ニ致シマシテ、一定賃  
金以上ノ扶助料ヲ請求シテ、ソレデ以  
テ打切ルト云フ建前ニナツテ居リマス、  
併シ今吾々ガ工場法ヲ實際取扱フテ居  
リマスル實況ニ依リマスルト云フト、  
實ハ三年デ打切ラレマシテハ、寧ロ三  
年デナクトモ或ハ二年デアリマス  
カ、或ハ二年半デアリマストカ、期間  
ハ短クテモ宜イカラ早ク扶助料ヲ貰  
テ、サウシテ其扶助期間ヲ打切ニシタ  
イト云フコトヲ労働者側ノ方カラ申込  
ンデ來ルノモアリマス、ト申シマスノ  
ハ長クサウ云フ——事業主ノ側ト致シ  
マシテモ扶助ノ期間ヲサウ長クスルト  
云フコトヨリモ、早ク片付ケテシマフ  
ト云フコトヲ望ム場合モ有リ得ルノデ  
アリマス、労働者側カラモサウ云フコ  
トヲ望ム場合ガアルノデアリマス、斯  
ウ云フ場合ヲ見テ參リマスト云フト、  
寧ロ長イ期間ヲ定メテ置クヨリモ、ソ  
レヨリモ早キ期間ニ於テ、其期間ヲ寧  
ロ短縮シテ、サウシテソレヲ以テ扶助  
料ヲ打切ルト云フコトガ兩者ノ爲ニ却  
テ便利デアラウト云フヤウナ場合ニ  
ハ、或ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ、此認  
可ヲ經ナイデヤリマスト不適當ナ期間  
ヲ定メ得ルノデアリマスカラ、行政官

廳ガ認可ヲシテ、適當ト思ヘバ其期間  
ヲ短縮シテモ宜イト云フヤウナ規定ヲ  
置イテ見タラドウデアラウカト云フコ  
トハ、是ハ必要ナノデアリマス  
○西尾委員 サウ致シマス其場合ニ  
於テハ事業主ト労働者ノ方ト雙方ガ同  
意ヲシタ場合ノミサウ云フコトガ行ハ  
レルノデアリマスカ

○富田政府委員 大體左様ニ考ヘテ居  
リマス  
○西尾委員 ソレカラ次ノ六ニ「扶助  
ノ基礎タル賃金ハ最近三箇月間ノ平均  
収入トスルモ日雇人夫其ノ他平均收入  
ニ依リ難キモノニ付テハ國ニ於テ一定  
ノ標準ヲ定ムルコト」、斯ウナツテ居ル  
ノデアリマス、此條文ハ工場法ト大體  
條文ノ上ニ現レタ精神ト同ジデアリマ  
ス、工場法ト實際ニ違ヒマスノハ、勞  
働日數ガ斯ウ云フ屋外労働者ノハ工場  
労働者ニ較ベテ少イノデアリマス、工  
場法ニ依リマス、三箇月間ノ實際ノ  
收益、ソレヲ實際ノ日數ト割ッタモノ  
ガ賃金ニナルノデハナクシテ、實際ノ  
收益ヲ三箇月間ノ九十日割ッタモノ  
ガ一日ノ賃金トナツテ居リマスカラ、此  
算定ヲ是ニ用ヒマスト非常ニ歩ガ惡ク  
ナツテ來ルト思フノデアリマス、此點ヲ  
ドウ御考ヘニナツテ居リマセウカ

○富田政府委員 御説ノヤウニ此屋外  
ノ日雇労働者デアリマスト云フト、此  
屋内ノ普通ノ労働者アタリヨリモ労働  
日數ガ御承知ノ通りニ非常ニ減ツテ來  
ルノデアリマス、隨ヒマシテ三箇月間  
ノ平均收入ト言ヒマシテモ、其期間デ  
割ルコトニ致シマスト云フト、平均ガ  
非常ニ下リマスルノト、又事實戸外勞  
働者デハ實際労働シタ期日ヲ明確ニ定  
メルト云フコトハ可ナリ困難ナ事情ガ  
アルノデアリマス、是等ノ事情ヲ參酌  
致シマシテ、原則ト致シマシテハ最近  
三箇月ノ平均收入ヲ以テ扶助ノ基礎タ  
ル賃金ト致シマスケレドモ、ソレニ據  
リ難イヤウナ場合ニハ例外ヲ設ケマシ  
テ、或ハ賃金ノ一般的標準ガムヅカシ  
イナラバ、或ハ業務別トカ或ハ地方別  
ニ依リマシテ、寧ロ國デ一定シタ標準  
ヲ置イテ、據リ難イ場合ニハ其標準ニ  
依ルト云フコトガ扶助ノ性質カラ、又  
労働者ノ便利ト云フコトカラ申シテ  
モ、左様ナ定メ方ヲシタコトガ適當デ  
アルト、斯ウ考ヘル次第デアリマス

○西尾委員 サウ云フ定メ難キ場合ト  
認定スルノハ誰ガスルノデアリマスカ  
○富田政府委員 ソレハ施行令其他デ  
國ノ一定ノ標準ヲ定メテ置イテ、サウ  
シテ其標準ニ依ツテ事業主ガ支拂フト  
云フヤウニ、施行令等ニ依ツテ一定ノ標  
準ヲ規則ニ於テ定メテ置イテ、其規則  
ニ依ツテ支拂フト云フコトニ致シタイ  
ト考ヘテ居リマス

○西尾委員 經濟界ノ好況不況ガアリ  
マスルシ、賃金ノ或產業ニ於テノ賃金  
ノ上ルトキト下ルトキガアルノハ常デ  
アリマスガ、サウ云フ實際上標準ヲ決  
メルコトハ實際可能ナンデアリマスカ  
○富田政府委員 大體ハ一定ノ標準ニ  
依リマスケレドモ、或ハ例外的ニ非常ニ  
經濟界ノ變動ノアツタ場合ニハ、多少其  
間ニ融通ノ附キマヌヤウナ建前ニシテ  
置キマスレバ、左程困難ガナイノデア  
ルト云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマ  
ス

○西尾委員 私ハ此點モ工場労働者ト  
違ツテ甚ダ實際ノ運用ノ上ニハ幾多ノ  
疑義ガアリマスルシ、又運用上幾多ノ祕  
曲ガ試ミ得ラレル餘地ガ此法案ニアル  
ト思フノデアリマス、サウ云フ所ヲ出  
來ルダケ正シクスル爲ニハ、ヤハリ是  
ハ全國的ナ意味デノ此法案ニ對シテハ  
是ハ假定的デモ宜シイガ、三年間ナリ  
或ハ五年間ト云フ風ニ此法案ノ實施ノ  
上ニ特別ナ委員會、是ハ先程言ッタノト  
同ジモノデアリマシテ、特ニ法律上權  
限ヲ持タシテドウト云フコトデナク、  
何カ問題ガ起ツタ場合ニソレヲ適當ニ  
處置シ得ル諮問機關ノヤウナモノヲ作  
ル必要ガアルカト思フノデアリマスガ  
如何デセウ

○富田政府委員 只今ノ御希望ハ先ノ  
委員會ノ御希望ヲ兼ネマシテ篤ト考慮  
致スコトニ致シマス

○西尾委員 是非サウ云フコトヲ一ツス

御願致シテ置クノデアリマス、ソレカラ第七條ノ「事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」

是ハドナタカ曩ニ質問ニナツテ居マシタガ、マダハキリシナカッタヤウデアリマス、「スベキ」アルニ拘ラズト云フ反語ハ資力ノナイ者ハ渡サナイデモ宜イト云フヤウニ取レルノデスカ如何デスカ

○吉田政府委員 資力ノ有無ヲ問ハズ扶助責任ノアリマスコトハ、他ノ條文デチャントキマツテ居ルノデアリマス、扶助責任ハ資力ヲ問ハズシテ免レナイノデアリマス、併ナガラ罰ヲ科スルト云フ時ニ於キマシテハ、資力ト言ヒマシテモ自分デ現金ヲ持ッテ居ラヌデモ、資力ハアリ得ルノデアリマス、融通能力ヲ含メテノ意味ノ資力ト云フコトデアリマス、自分デ工面サヘスレバ拂ヘ

ルニ拘ラズ拂ハスト云フ事實ガアッタ時ニ、罰金ヲ以テ取ルノデアリマス、義務ヲ免ズル意味デハ決シテアリマセ

ス、制裁ヲ科スル場合ニハ、全然資力ガ無クテ拂ハナイト云フ場合ニモ、尙

ホ千圓以下ノ罰金ニ處スルノハ、ソレハ酷デアラウト云フコトデ致シテ居リ

マセス、併ナガラ扶助責任ハヤハリ他

ノ條項ニ於テキマツテ來ルノデアリマ

ス

○西尾委員 此法案ノ適用ハ、土木事

業ニ於キマシテハ一萬圓以上ノ工事、人

數ニ於テハ千人以上ノ工事ト云フコト

ニナツテ居リマスルガ、例ヘバ茲ニ十萬

圓ノ工事ヲ元請負ガ請負ヒマシテ、ソ

レヲ十一人ニ分配シテ下請ヲサセマス

ト、何レモ本法ノ適用ヲ免レルト云フ

コトガ出來ルト思フノデアリマスガ、

サウ云フ脱法行爲ヲ防止スル爲ニハ、

適當ナ方法ガ講ゼラレテアリマスカ

○吉田政府委員 サウ云フコトハ免レ

ラレナイノデアリマス、十萬圓デ元請

ヲ致シマスレバ、其元請人ハ十萬圓ノ

工事ヲシタコトニナリマスカラ、本法

ノ適用ヲ受ケルノデアリマス、其工事

ヲ一部分一部分下請ヲ致シマシテモ、

全體トシテ十萬圓ノ一廉ノ工事デアリ

マスカラ、ソレハサウ云フ方法デハ免

レ得マセス

○西尾委員 ソレカラ勞働者災害扶助

責任保險法施行令ニ規定スベキ腹案ノ

中ノ、第六ノ保險金支拂ノ方法デアリ

マス、是ハ其中段以後ニ、左ノ場合ニ

於テハ事業主ノ申請ニ依リ又ハ政府ノ

職權ヲ以テ扶助ヲ受クベキ勞働者又ハ

遺族ニ對シテ政府カラ保險金ヲ支拂フ

コトガ出來ルト云フコトニナツテ居ル

ノデアリマスルガ、是ハ勞働者ノ要求

ニ依ッテモ、政府カラ保險金ヲ事業主ニ

代ッテ支拂ッテ貰ヘルト云フコトニシタ

方ガ宜イト思フノデアリマス、例ヘバ

「イ」「ロ」「ハ」トアリマス、「ロ」ノ場合

扶助責任ノ有無又ハ扶助料ノ額ニ關シ

紛議又ハ疑義アルトキニハ、政府ガ代

テスル、斯ウ云フ場合ニハ、積極的ニ

政府ガ事業主ニ代ッテ何ンボクノ拂ヒ

マスト言ヘバ宜イガ、地方ニ於テハ

東京、大阪ニ於テハ、サウ云フコト

ハナイノデアリマスケレドモ、地方ニ

行キマスト、警察官ノカト云フモノハ

トモスレバ地方ノ有力ナル事業家、若

クハ腕ノ荒ッポイ請負業者ニハ、遠慮勝

チノ地方ガ間々アルノデアリマス、サ

ウ云フ所デハ官廳ガ積極的ニ出ルト云

フコトヲ躊躇スルト云フ場合ガアリ得

ルト思フノデアリマシテ、サウ云フ弊

害ヲ除ク爲ニハ、勞働者ノ要求ニ依ッテ

モ政府ガヤルト云フコトニシテハドウ

カト思フノデアリマス

○吉田政府委員 勞働者ノ要求ガアレ

バ、政府ハヤラナケレバナラナイト云

フ建前ニシタラドウカト云フコトデア

リマスガ……

○西尾委員 紛擾ノアツタ場合……

○吉田政府委員 サウ云フ場合ヲ豫想

シテ斯ウ云フ風ニヤッタ次第デアリマ

ス、多クハ扶助ヲ受ケル勞働者又ハ遺

族ノ申出ニ依ル積リナノデフリマス、

其場合ハ丁度御考ノヤウナ積リデ、是

ハ立案シテ居ルノデアリマスガ、尙ホ

立法ノ技術ト致シマシテ、御尋ノ點ハ

考慮致シマス

○西尾委員 ソレカラ勞働者災害扶助

責任保險法案ノ附則デアリマスガ、此

處ニハ土木事業ノ工事ニ關シテハ本法

施行前ニ著手セラレタルモノニハ第三

條ノ規定ハ之ヲ適用セズ斯ウナツテ居

ルノデアリマス、是ハ著手シテモ其事

業ガヤハリ將來ニ長ク續クヤウナ事業

ナレバ、保險ニシタ方ガ宜イノデアハ

リマセヌカ

○吉田政府委員 保險ニシタ方ガ安全

デアルト云フコトハ、勿論御趣旨ノ通

リナノデアリマスガ、ソレ以前ニ請負

契約ガ締結セラレテ居リ、請負金額モ

ソレ以前ニキマツテ居ルノデアリマス、

其際保險ト云フモノ、アルコトヲ知ラ

ズ、無イ状態ニ於キマシテキメテ居ル

ノデアリマスカラ、遡ッテ其仕事ヲ保險

ニ入レルト云フコトニナリマス、法

律關係ノ紛淆ヲ來スノミデナク、ソレ

ニ入レルコト自身ガ難儀ダト思フノデ

アリマス、扶助責任ハ無論アルノデア

リマスガ、保險ニ之ヲ取入レルト云フ

コトハ、事實非常ニムヅカシイノデア

リマシテ、保險ニ取入レマスモノハ、

本法ノ施行後ニ著手致スモノニ限ッテ

置キマシタ方ガ、却テ紛淆ヲ來サズシ

テ宜シカラウト云フ考デ、斯様ニ致シ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ居ルノデアリマス

○西尾委員 大體本案ニ付テハ私共賛成デアリマスガ、本法ノ實行上ニ於テハ、先程カラ申シマシタヤウニ、甚ダ不安ニ思フ點ガナキニシモ非ズト云フ状態デアリマスカラ、私ノ質問ヲ終ルニ臨ミマシテ、法ノ運用ノ上ニ於テ、労働者側ノ利益ヲ保護スル爲ニ、労働者側ノ利益ヲ代表スル者ト、明瞭ニ社會デ認識サレル人々ヲモ入レタル委員會ヲ組織シテ此法案ガ正シク運用サレルヤウニ、特ニ當局ガ御考慮サレルコトヲ希望致シマシテ私ノ質問ヲ打切リマス

○山邊委員長 ソレデハ四時半マデ休憩致シマス

午後三時三十三分休憩

〔休憩ノ儘散會〕

昭和六年三月十六日印刷

昭和六年三月十七日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社